



ROTARY CLUB OF

NARA - WEST

DISTRICT WEEKLY BULLETIN
2650 No. 2499 2024. 2. 8

創立 1969年(昭和44年)12月13日
例会日 毎週木曜日18:00より
事務所 〒630-8001 奈良市法華寺町254番地
例会場 奈良ロイヤルホテル内
TEL 0742-34-1131 FAX 0742-30-2000

2023~2024年度
国際ロータリーのテーマ

2023~2024年度
地区のスローガン



世界に希望を生み出そう

「個性、基本、求心力」



2023-24年度 内輪会トロフィー

国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー

RI第2650地区ガバナー
中野 博美

会 長	中西 吉日出	副 会 長	有馬 康明	会長エレクト	佐川 寛一	直前会長	渡邊 巖	幹 事	笹本 麻琴
会 計	福川 益則	会場監督	野阪 幸男	理 事	井上 直治	理 事	谷垣 嘉輝	理 事	川野 隆祐
理 事	松中 隆	会報委員長	岡崎 義幸						

今月は 平和と紛争予防・紛争解決 月間です

第20回(2499回)例会プログラム令和6年2月8日(木)

1. 開会宣言 点鐘
2. ソング 「奈良西RCの歌」
3. 来訪者紹介・出席報告
4. 会長の時間
5. ニコニコ報告
6. 委員会報告・幹事報告
7. 第3回クラブフォーラム
8. 閉会宣言・点鐘

第19回 (2498回) 例会報告 2024. 2. 1

ソング

「君が代」「奉仕の理想」

来訪者紹介

枚村 喜芳様 第2650地区RI委員会 委員
Maxim Peter君 青少年交換学生

出席報告

	会員数	出席計算 免除会員数	出席会員数	欠席者数	出席率
通 算 2498 回	36	4/7	19/29	10	69.7%
通算2496回修正	36	3/7	26/29	3	90.6%

会長の時間 (中西会長)

皆さんこんばんは。2月3日は節分で、古都奈良でも、東大寺二月堂節分星祭り 霊山寺節分星祭法会 春日大社節分万灯籠 興福寺追儼会(鬼おい式のことであります) など、神社仏閣で色々な伝統行事が開催されます。今年の節分は、2月3日(土)であります。太陰太陽暦では立春に最も近い新月を元日とし、新年の始まりであることから、一般的に立春の前日に節分の行事が行われるようになったといわれております。

では、節分とは具体的に何をやる日なのでしょう。一般的に邪気を払い、無病息災を願う行事、といわれており、昔から、「季節の変わり目には邪気が入りやすい」と考えられ、また「この時期(2月上旬)はまだ寒く体調を崩しやすい」ことから新年を迎えるにあたって、邪気をはらい清め、一年間の無病息災を祈る行事として追儼という行事が行われてきました。

もともとの発祥は中国ですが、大陸文化が広く取り入れられた平安時代、に宮中行事として行われるようになったと言われております。これは疫鬼などを追い払うもので、大晦日に陰陽師がきて、災難をはらい清める儀式が行われていたということでもあります。

古くは「続日本書紀」のなかに、疫、鬼などを追い払うとの記述が見られ、宮中行事としての追儼は徐々に衰退し、江戸時代には行われなくなり、いつの頃からかは、豆をまいて鬼を払い無病息災を願う「節分」という行事として庶民の間に広まり、定着したようであります。ちなみに、この節分、2月3日というイメージが強いですが、2月2日や4日になる年も、わずかにあり、日にちは固定ではなく、2021年は、なんと1897年以来124年ぶりに、2月2日が節分であり、ちなみに、1984年は2月4日で、2021年は、それ以来37年ぶりに2月3日以外が節分でありました。これは4年に一度の、うるう年と関係があり、もともと、節分という言葉には、季節を分けるという意味があり、本来は季節の始まる日であるの二十四節気の立春、立夏、立秋、立冬の前日」のすべてを指します。

二十四節気は天体の動きに基づいていて、太陽と地球の位置関係で決まり、立春は太陽が黄経315度となる日。軌道周期は1年きっちりではなく、少しずつズレが生じており、4年ごとに1日増やしたうるう年を設定することで、帳尻を合わせております。

会長の時間(続き)

今後はしばらく、節分はうるう年の翌年は2月2日、となり、今年2024年はうるう年なので、来年2025年の節分が2月2日になります。節分には、魔除けとして、柊鰯をかざります。

節分の豆まきのほか各家庭で、焼いた鰯の頭に、柊の小枝を指したものをかざったりいたします。トゲトゲした柊の葉は触るとヒリヒリとうづき、いくら鬼でも目に刺さったらひとたまりもない。また、鬼は鰯の焼いた時の煙が大の苦手なのだから。門や、玄関に小枝を指せば最強の鬼よけになり、鬼は絶対に近寄らないといういつたえがあり、私のいえでも、最近までしておりました。

これは主に大阪や京都など、関西で行われている風習で、瀬戸内海の西部地域では、柊の代わりにオニグイの枝を使うそうであります。また、魔除けの意味を込めて、焼いた鰯を食べるのもよいとされております。皆さんのご家庭でも今年の節分2月3日には、何か、されますでしょうか。私は、年の数だけ豆を食べようと思っております。以上会長の時間といたします。

理事会報告

1. 新入会の件、小原壮一様の件 職業分類が泌尿器科医になります。2月2日より会員様にご案内送付されます。

2. 卓話について

2月1日は地区よりRLI委員会 杵村様がお越しになります。(RLIの役割 元気な強いクラブを創ろう)です。

2月8日はクラブフォーラムです。

2月15日、22日は休会

2月29日卓話は、相澤会員によるラオスでの社会奉仕報告です。

3. 事務局のスマホの件

松中理事がドコモの法人営業部に問い合わせを行ったところ、10台以上の契約でないと受けれないという事なので相見積もりが取れませんでした。

タフ様の提案通り新機種に変更する事になりました。

4. 後任の委員長の件

クラブ奉仕の理事は佃P会長、プログラム委員長は東山会員、総務委員長は相澤会員、会員選考委員長は三木P会長、青少年交換委員長は中井会員、皆様お引き受けくださいました。

5. クラブフォーラムの件

前年度最終例会時に、吉村パスト会長より退会届が提出され、12月末付けで4名 川野クラブ奉仕理事、猪上総務委員長、内藤青少年奉仕委員長、榎木プログラム委員長の4名も退会届が提出され、この影響が他の会員にも、波及していると思われますクラブフォーラムで皆で話し合いが必要です。

退会に至る経緯をお話します。

ニコニコ報告

中西吉日出会長

誕生日を迎えられた会員の皆様おめでとうございます。本日、杵村様の卓話楽しみにしております。

北林秀彦P会長、渡邊巖P会長、植野洋志P会長、谷垣義輝会員、有馬康明会員、植田良壽会員、小松玲子会員、寺田信弘会員、丸山佳映会員

2650地区RLI委員会委員の杵村様、本日の卓話宜しくお祈いします。楽しみにしています。

笹本麻琴会員

杵村PLI委員様、本日はようこそ奈良西RCへ。本日の卓話とても楽しみにしていました。よろしくお祈いします。

2650地区RLI委員会委員 杵村喜芳様

2650地区RLI委員会より寄せていただきました。宜しく。

会員の誕生祝



■2月生まれ■

杉村 仁P会長	2月6日生まれ
安井 清悟P会長	2月11日生まれ
津山 初雄P会長	2月16日生まれ
川上 顕慶会員	2月16日生まれ

皆様おめでとうございます！

幹事報告 (笹本幹事)

例会変更情報は表の掲示板に掲載しております。次週のクラブフォーラムは、テーマがまとまらなかった場合、変更になる場合がございますが、ご了承ください。

「RLIの役割(元気で強いクラブを創ろう)」

2650地区RLI委員会 委員

杵村 喜芳様

RLIとはロータリーリーダーシップ研究会の事です。このRLIの研究会は、質の高いリーダーシップ教育を通じて、ロータリークラブを強化するため多くの地区が採用するリーダーシップ開発プログラムです。

2650地区では、2010~11度の栗田ガバナーの時に始まり今年で14年目を迎えます。

RLIの目的の一つは、将来クラブのリーダーシップを進めることが出来る潜在能力を有するロータリアンを見出し、そのロータリアンにとって、ボランティア組織にとって重要なリーダーシップと技能と質の高い教育を提供することが目的です。

RLIの二つ目の目的は、私達がロータリアンとして成長し、充実した活動をするためには、ロータリアンの自主性と卓越した指導力を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育て、ロータリーを楽しく活性化することです。

研修の基本コースは、パートI・パートII・パートIIIと卒業コースになっています。一日6時間、6~8名程度のグループに分かれ、毎回6つのセッションの分科会をすべて回って研修を行います。

参加者は、3回以上同じメンバーと顔を合わせないように配慮しています。参加終了者には、パート毎に研修の修了証書を授与されます。

ここでの研修のポイントは「正解のある議論」にするのではなく、お互い参加されたロータリアン同士、お互いの学び、経験に基づく考え方や奉仕活動を紹介しあい、触発しあいながら「お互いの考えを深めていく議論」を目指しています。

カリキュラムにある討議には主要な三つの柱として、①リーダーシップ・②奉仕・③会員組織の強化がスパイラル状に組み合せられています。

「パートI」では、「ロータリアンとしての私」私達一人一人が学ぶべきテーマが各セッションのテーマになっています。具体的にどんなセッションがあるのか。

「パートI」の6つのセッションのテーマ構成

- 1) リーダーシップの本質をつかむ(ロータリーにおけるリーダーシップ)
- 2) 私のロータリー世界 3) 倫理と職業奉仕 4) 財団 私たちの財団
- 5) 会員を引き込む(会員組織と会員維持)
- 6) 奉仕プロジェクトを創造する(ロータリーの効果的な奉仕プロジェクト)

「パートII」では私達クラブに関するテーマを検討します。

より効果的なクラブに成長するための課題が各セッションでのテーマになっています。強いクラブにする為に、改善可能な領域の再検討。どのようにして特別な改善が成されなければならないか。

クラブの戦略計画とその分析を進めていくことで、クラブを強くすることができます。私達は、問題改善のために、どのようなことができるでしょうか。私達のクラブの地域社会における特有の地位について、又、新会員を惹きつけるクラブの質についても検討します。

「パートIII」ではロータリーの世界を学びます。

パートIIIでは、パートIIでの体験をもとに、より幅広くロータリーの世界を学びます。その目的はロータリアンとしての成長とロータリー感の確立です。このセッションでは、効果的なリーダーシップ戦略、熟練したリーダーシップ技術の使い方、リーダーシップの機会を身につけます。

ロータリーでの機会、個人や地域社会、あるいは職業上の成長や発展のために、ロータリーで利用できる多くの機会を探求することを考えるのがパートIII会員の皆様に、よりRLIを理解して頂く為には、まずRLIの研修を体験して頂くことであります。「一見は、百聞に如かず」という言葉があります。

伝える言葉には限界があります、それより現場に足を運び、自分の目で見て、耳で聞いて、鼻で嗅いで、触れてみる、そして自分の体験や考え、クラブの活動を確り話して頂くことです。

クラブが活性化し強いクラブになって行く為には、いろんな条件があろうかと思いますが、私は基本となるその原点は、ロータリーを思う、リーダーの熱いエネルギーであり、そのエネルギーの向かうところは会員増強と例会出席の大切さへと繋がっていくのだと考えています。

最近のRLIは出席に重きを置いていないように感じるの私だけでしょうか?

それでも私は、ロータリーの原点である出席を大切に思い、出席の意義を理解することだと思っています。

クラブの活性化・元気で強いクラブを創るために何故出席が大切か?



卓話(続き)

私の入会当時を少し振り返ってみたいと思います。

RCでの出席

出席クラブの活性化・元気な強いクラブを創る為に出席が何故大切か 私の入会当時を振り返って 何故、ロータリーは毎週例会が開かれるのでしょうか。何故ロータリーは毎週 例会に出て来いと言うのでしょうか?

これは寄付団体や慈善団体であれば毎週例会に出る必要はないわけでありませぬ。何故毎週ロータリーの例会が開かれるのかと言う意義を真剣に考える必要が有ります。

RIでは月2回の例会開催であれば良いと言う方針を出されましたが、あくまでも、クラブの自主性に任せると言う事でありました。

2650地区の大半のクラブは、月3~4回の例会を選び、今まで通り開催されています。これは、仕事を休んだデメリットよりも、例会に出たメリットのほうが大きいからこそ、例会出席の意義を見つけているからだと思ひます。

私達はロータリーの入会時、「毎週一回必ず例会に出席」この説明を聞いて、それを承知の上で、入会を決意し、入会を許された時から、毎週の例会に出席する義務が発生することになりますと同時に出席の権利が与えられます。

毎週の例会に出席することを、生活のリズムに定着させて来た。

ロータリアンは毎週一回例会に出席して、友情を高め、お互いに奉仕の心を磨き合う、ロータリーの基本的な考え方ロータリーの心を学ぶ所では無いでしょうか。

私が入会してまだ浅い時期に、先輩にロータリアンにこんな質問をした記憶があります。「ロータリーとは一体何をするとところですか」。その時の先輩の答えは振返っていましたね。先輩の答えは「そのうちに解るよ」でありました。その通りだと今は思ひます。

米山梅吉は例会は「人生の道場」と言っています。

例会場の入り口に常に、掲げてあるテーマ「入りて学び、出でて奉仕せよ」があります、例会の内に於いては、奉仕の心を作り、例会の外に於いては、その心を持って実践する、週一回の例会は、ロータリアン、あなたの、私達みんなの特権であります。

多用な職業人としては厳しい約束事ではありますが、これこそが会員の原点であります。顔を合わせる機会が多ければ多いほど、私達の絆は強くなり、仲の良い信頼関係が築かれていくのです。RCの例会が月に一度や二度の出会いでは無く、毎週一度、決まった曜日、時間、決まった場所で多くの会員と顔を合わせることで友情の絆は、より強くなり、信頼関係が深くなる。ここに毎週開かれる例会の意義があると思ひます。

長年にわたり時間を守り、相手の身になって考える習慣が付き、人付き合いが楽しくなり、そして良き師、よき友に恵まれるという、他では得られない、人生の宝が存在する場所だと思ひます。

「縁尋機妙」「多逢勝因」という言葉に繋がっていく、その場所こそがRCの例会場では無いでしょうか。

そこで、ロータリーライフの基本は、やはり例会出席であります。

例会や委員会の奉仕活動に参加していれば、ロータリーが知らず知らずの内に体にしみ込んで馴染んでくるというわけですね。その為にはロータリーでは毎週例会に出て来いと言うのであります。

最後になりましたが、貴クラブの益々のご発展を祈念して終わらせて頂きます。

青少年交換

2月4日にキャンパスプラザ京都で開催された青少年受入研修会・ウエルカムパーティーに下村カウンセラー、Maxim Peter君、派遣予定学生に加藤帆夏さん、お母様の弥恵様が参加されました。



第21回 (通算2500回)例会予告
例会日 令和6年2月29日(木)

卓話:「ラオスでの社会奉仕報告」

相澤 万裕子会員

◎2月15日・22日は休会です